

会 議 録 概 要

会 議 の 名 称	令和6年度第2回ひろさき教育創生市民会議
開 催 年 月 日	令和6年11月12日(火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時00分 から 午後3時55分 まで
開 催 場 所	岩木文化センターあそべるホール(弘前市大字賀田一丁目18-4)
座 長 の 氏 名	国立大学法人弘前大学 教育学部 教授 福島 裕敏
出 席 者	座長 福島 裕敏 委員 相馬 隆子 委員 藤田 俊彦 委員 鎌田 猛 委員 矢田 公夫 委員 猪股 豊 委員 福島 龍之 委員 佐藤 信隆 委員 花田 流久 委員 鈴木 勝久 委員 福井 深雪 委員 佐藤 智絵 委員 佐藤 忠全 委員 高野 光 委員 清宮 絵里子 委員 岡田 敦史 委員 佐藤 滋子
欠 席 者	委員 萩臺 美紀 委員 尾形 公一 委員 山本 勝規 委員 奥野 武志 委員 佐藤 誠 委員 井上 裕太 委員 木村 憲夫 委員 椛澤 睦子 委員 佐藤 優輝 委員 古川 浩樹 委員 黒木 和実
事務局職員の名職氏	教 育 長 吉田 健 教育センター所長補佐 佐藤 久美子 教育総務課長 高谷 由美子 生涯学習課長 原 直美 学校整備課長 高山 知己 中央公民館長 中川 元伸 学務健康課長 相馬 隆範 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長 熊谷 義昭 学校指導課長 工藤 利彦 文化財課長 石岡 博之
会 議 の 議 題	地域の歴史や文化財に親しむ気運の醸成について
会 議 資 料 の 名 称	資料①令和6年度初任者研修 弘前の歴史 資料②令和6年度初任者研修(前期) 弘前の歴史 - 埋蔵文化財・史跡・世界遺産 -
会 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)	1 開会 2 教育長挨拶 3 組織会 4 議事(グループ討議) 5 閉会 【内 容】(概要) 1 開会

3 組織会

ひろさき教育創生市民会議運営規則第3条第2号に基づき、座長が井上裕太委員を座長代理に指名し、決定した。

4 議事

「地域の歴史や文化財に親しむ気運の醸成について」

各委員の視点から、地域の歴史や文化財に親しむ気運の醸成に繋がる取組について各グループで討議し、主な意見を発表する。

(事務局説明)

説明者：文化財課長

資料①令和6年度初任者研修 弘前の歴史

資料②令和6年度初任者研修（前期）弘前の歴史 - 埋蔵文化財・史跡・世界遺産 -

○グループ討議

座長よりグループ討議の進行手順について説明

○各グループからの報告

(Aグループ)

- ・二つの視点に絞って議論を行った。一つは子どもたちにどうやって郷土愛を育んでもらうかという視点。もう一つは弘前市の文化財や伝統文化、建造物や街並みなどの資源を再利用し、他県からの観光をどう促進していくかという視点である。
- ・市で行われる様々な催し物に子どもを連れていくことが大事である。
- ・県外に移った若者に SNS で弘前の魅力を発信してもらうことが具体例として挙げられた。
- ・テレビ番組で津軽弁を話すタレント等が活躍しており、今後の効果に期待したい。
- ・八戸市では街の情報を書いた「ふきだし」を設置しているという話題があった。そのような事例を調べ、弘前市も実施してみてもどうか。
- ・文化財課の説明にあったような学校の授業における体験学習や、文化施設の見学などの機会は今後も継続的に提供してほしい。

(Bグループ)

- ・その文化がなぜ広がったのか、文化財がなぜ貴重なのかという理由や根拠から本質的な価値の理解へ繋がらなければ子どもたちの興味が続かないと考え、その入口として大きく分けて二つの取組を考えた。
- ・一つ目は、オーソドックスな体験活動として、町名の由来等の身近な調査や、図書館で調べる自由研究、ボランティアガイドをすることなどが挙げられた。

- ・子ども達だけではなく、保護者や引率する先生等も知識を増やすために学ぶ機会が必要である。
- ・「縄文」を例として、その縄文の一連の歴史の流れが見てとれるような場所が工夫されていれば、先生や子どもたちが学ぶことができる。
- ・(歴史や文化財等をテーマにした) マップやパンフレットを発信することが、疑似体験に有効な手だてになると考える。
- ・もう一つは、ゲームや漫画などのコンテンツや、SNS、配信動画等を活用することで、そこから得られるわかりやすい楽しみや喜びが子どもたちの興味や知的好奇心を引き出すことへ繋がると考えた。
- ・今回文化財課の説明にもあったように、地域住民である私たちは、あまりにも身近なところに沢山の文化財等があり過ぎて、いつでも行けるとか、いつでも見られるという気持ちがあったことを反省している。

(Cグループ)

- ・Cグループでは子ども、地域住民、市全体、観光客の四つの観点で考えた。
- ・弘前城や弘前公園を知らない子どもたちが意外と多いのではないかと考え、現地に行って体験や作業をすることが大事であると考えた。例としては、夜の桜体験ツアーや、弘前公園などで忍者の恰好をして探索をしたり、郷土料理の体験や交流都市との交換学習などが挙げられた。授業の中で、弘前の文化財に触れる機会を増やしていく必要があると考える。
- ・地域住民の観点としては、小学生はねふたに参加するが中学生・高校生は少ないので、その年代の参加を推進していかなければいけないということや、市内大学において弘前市に関する教育に取り込んでいくことも必要ではないかという意見が挙げられた。
- ・市全体としては、広報や施設等での展示の仕方を見直していくこと必要だという意見が挙げられた。
- ・観光客としては、SNSでの発信はもちろん、観光地のグローバル化や英語の表記をふやしていくことが重要なのではないかと考えた。その他の例としては、映える(ばえる)建築ツアーということでライトアップをすることなどが挙げられ、体験型の活動やイベントを推進していく必要があると考えた。
- ・まとめとしては、最終的に弘前を修学旅行の聖地にしていけたらいいなという感じでまとまった。

【発表で出た意見について(文化財課長)】

- ・いただいたご意見の中で共通していた SNS 等の活用を含めた情報発信については、私たちも届けるべき人全てに届いていないのではないかと痛感している。
- ・例えば堀越城秋祭りについては、はしご車で高いところから俯瞰して

見学するとか、甲冑を着た武将隊と堀越城を攻める体験など、内容に工夫を凝らしているが、集客については伸び悩んでいる。

- ・情報発信力の向上のための取組として、今年度実施した「大森勝山遺跡 冬至の魅力発信ツアー」では参加の条件を SNS で発信できる方にした。昨年は試しに留学生を招いたところ、1件ではあるが海外からパンフレットが欲しいと問い合わせがあった。このような積み重ねが大事であると考えている。
- ・縄文を俯瞰できるものとして、現在裾野地区の交流センターを改築中で令和8年度に大森勝山遺跡のガイダンス施設が完成する。そこでは縄文遺跡だけではなく、いのちの展示や、土器に実際に触れる体験もできるような施設になる予定であり、そこである程度弘前市に関わる縄文の情報は出てくると考えている。
- ・皆様の意見にあったように、ニーズに合った情報の提供というのはものすごく大事だと認識している。1つ1つ何かやるたびにご意見を参考にしていきたい。

(座長まとめ)

- ・観光や教育において、まず人々の興味を引くことが重要であり、そのためには多様な入口を提供することが必要である。特に子どもに対しては、教材にこだわらず、ゲームや漫画などの親しみやすい手段を用いることも効果的なのではないかと考える。
- ・写真や映像、SNSなどで興味を引いた後に、行ってみたい、食べてみたい等、そこに行かなければ出来ない体験をどう仕掛けていくかが重要である。
- ・市内の文化財等を点ではなくて、線や面で考えて見学するコースを考え、デザインしていくことも必要である。
- ・弘前商工会議所で小学生が弘前を案内するキッズガイドツアーを実施したと耳にした。他の人に説明をする機会を持たせることは、しっかりと情報を知ることにつながっていく。
- ・文化財課からの説明を受けて、鎌倉市と同じぐらい重要文化財があるという事に驚いた。このような情報があれば興味を惹かれる市民は多いと思うので、広報誌でも何でもいいので案内して広がれば、地域住民の見方も変わると考える。

5 閉会